

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3870104068		
法人名	株式会社 ユニケア		
事業所名	アトラス奥道後		
所在地	松山市末町乙41番3 (電 話) 089-977-3233		
管理者	堤 裕子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町三丁目8番15号		
訪問調査日	平成19年7月12日	評価確定日	平成19年10月29日

【情報提供票より】 (19年 6月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 8人, 非常勤 7人, 常勤換算	人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	27,375 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (6月 22日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	3 名	要介護 2	8 名
要介護 3	4 名	要介護 4	3 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 83.6 歳	最低 65 歳	最高 96 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護
届出 あり・(なし)	短期利用型共同生活介護
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者、家族の意見を大切にし、常に話し合いの機会を持ち、その人らしい生活が送れるよう日々の支援に努めている。ホーム便りでは行事報告や利用者の生活の様子を分かりやすく伝え、ホームからの情報を具体的に伝えている。職員が希望する研修には率先して参加を促し、職員全員の質向上に努めている。月に1度はバスでバラ園、菜の花園、スイカ狩りなどに出かけ、自然の中で心身ともにリラックスしてもらっている。共用広間は広く、周囲に緑の自然が広がり、心を癒してくれる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)	自己評価は職員全員が話し合いながら作成し、外部評価とともに検討しあい、具体的な質の向上に繋げている。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)	自己評価で課題として取り上げた項目「地域密着型サービスを中心とした体制作り」に取り組んでいる。また地域の協力を得た避難訓練の実施に関してもその体制づくりに努めている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4, 5, 6)	中学校の職場体験学習を実施してはどうかとの提案に対して、2学期に取り組む計画を組んでいる。そのための準備として先生の見学を予定している。外部評価も検討課題に取り入れてはどうか、などの意見が出され、その方向に向けた体制をとるよう計画している。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)	玄関に意見箱を設置し、ホームに対する意見や相談事項を聞き取るよう努めている。運営推進会議において、ホームに対する希望や質問事項を伝えてもらうよう努めている。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)	町内会に所属して出来る限り地域の行事に参加している。地方祭には獅子舞がホームを訪れ、また奥道後にはしばしば出かけ、交流を深めている。近くの中学校との交流も計画している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
 - 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
 - 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
 - チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 アトラス奥道後

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)
氏名 堤 裕子

評価完了日 平成19年 6月 22日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 開設時に作成したものであり、「家庭的な環境の下で」という基本方針で作られたものである。	※	「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」を考慮した新しい理念を考える時期にきている。
			(外部評価) 家族的な雰囲気の中でゆったりとした生活が送れるよう、職員が話し合っって理念を作成し、共有しているが、地域密着型サービスの役割を考えた理念の作成までには至っていない。	※	利用者一人ひとりが地域の中で安心した生活ができるよう、地域との関わりをさらに大切にしたい理念を職員全員が作り上げていくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 頭ではわかっているが中々文章に表現できず困っている。	※	職員間で意見交流を図り、事業所独自の理念をつくりあげ、理念の実践に向けて日々取り組みたい。
			(外部評価) 開設時に作成した理念をホーム内に掲示し、機会を捉えて職員が話し合いを持って理念の共有に努め、ケアに具体的に活かすよう努めている。	※	地域密着型サービスとしての新しい理念を文章化し、ホームの目に付きやすい場所に掲示し、その共有に役立てることを期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念を、見やすいところに明示しているが、すべての家族が知っているかどうか疑問である。	※	まず 事業所独自の理念をつくりあげ、職員間に浸透させ、家族や地域の人々に理解してもらえるよう明示していきたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所の子供が犬を見に来たり、近隣のデイサービス利用者との交流や運営推進会議のメンバーの方を通し輪が広がっている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 盆踊り、夏・秋祭り等に参加させてもらったり、地元の中学生の職場体験場所にしていただくよう交渉中など地域との交流を大切にしている。		
			(外部評価) 町内会に所属して地域の行事には極力参加し、また地方祭には獅子舞がホームに立ち寄ってくれる。また近くの奥道後にはしばしば出かけ、交流を図っている。しかし近くの中学校との交流は実現していない。	※	中学校と職場体験や運動会参加などを通して交流を深め、地元の人たちとの交流を一層深めていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 包括支援センターと協力し介護予防教室開催等、地域住民を対象に認知症の理解や接し方の勉強会を検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) ミーティングで サービス評価の意義や目的を全職員に伝え協力を得ると共に、外部評価の結果を報告し改善に向けて努力している。 (外部評価) 自己評価は職員が話し合っており、職員全員が会議で自己評価、外部評価共に検討し合い、ケアの質の向上につなげていくよう努めている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 前回の運営推進会議で出された提案については、その経過を報告し一つ一つ積み上げている。外部評価についても一緒に考えていただくよう提案している。 (外部評価) 会議には公的機関の担当者、民生委員、地域の区長、利用者代表などが参加し、具体的な提案事項や要望事項を述べ合い、話し合いの内容は報告書に詳細に記載し、ケアの改善に繋げている。しかし家族代表者の参加がない。	※	会議には家族代表者に参加してもらい、忌憚のない意見や要望を聞き取ることが望む。また、参加者を固定するのではなく、交代して参加してもらい、さまざまな新しい意見を聴取することを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 介護保険更新時など利用者の方と一緒にいき状況を見ていただいたり、新しい情報を提供していただく。 (外部評価) 市の担当者に運営推進会議への出席を依頼するほか、ホーム側から市に出向いて担当者から介護に関する指導を受けたり、情報交換を行っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護・成年後見制度について研修に参加し、その資料を基に伝達講習を行い職員の理解を深めるよう努力している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング等で体験談を話したり意見交流を行い みんなで対応を検討する。一人で抱え込まない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明を行ない、理解、納得を得ると共に、何かあればいつでも相談対応ができるよう心がけている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 常に利用者の声を聞き、問題への解決に努めている。また、重要事項説明書等には外部者への連絡先等も示している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態については、毎月写真入の便りを送ったり、面会時状況報告をしたり、金銭管理については、小遣い帳にサインや確認印をいただく。 <hr/> (外部評価) ホーム全体の暮らしぶりや生活状況は、毎月ホーム便りを届けて報告している。また個人の情報に関しては電話などで具体的に伝えている。金銭管理に関しては出納帳に確認の印をもらっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付窓口・意見箱の設置により、意見、苦情の声を聴き改善していけるよう努めている。 <hr/> (外部評価) 利用者や家族から不満や要望を気安く伝えてもらえるよう、玄関に相談箱を設置し、運営推進会議でも利用者代表から忌憚のない声を伝えてもらっている。また重要事項説明書にはホーム内と第三者機関の相談窓口を明示している。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にミーティングを行い職員の声を聴き入れている。また、改善提案書を一人ひとりに書いてもらい、より良い施設を目指し努めている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 常勤、パートの人材確保により勤務状態は確保されている。勤務表もそれぞれ無理なく仕事できるよう1週間ごとに希望を聴き入れ作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 定期的に悩みを聴き入れ異動や離職を必要最小限に抑える努力をしているが、やむを得ない場合は利用者への負担を最小限に抑えられるよう配慮している。 (外部評価) 利用者と職員の馴染みの関係の重要性を十分理解しており、異動や離職を極力避けるよう努めているが、やむをえずある場合は利用者と家族に説明をして理解を得、職員全員でカバーし合ってケアに支障のないよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個々に適した勉強会への参加や講習会への呼びかけを行っている。研修報告書・資料については全職員が閲覧できるようにしている。 (外部評価) 職員が希望する研修会や講習会には参加を促し、ケアの質の向上に繋げている。参加者は報告書をまとめ、職員全員に閲覧し、全職員の資質向上に努めている。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域の同業者と互いに施設見学を行いネットワークを持ち、お互いの事業と協力し合えるよう検討している。 (外部評価) 近くのホームとは交流を持ち、お互いの質の向上に努めているが、交流の機会が十分ではないので、今後さらに多くのホームと交流を深め、お互いに研鑽し合えるよう検討している。	※	地域の同業者との交流や勉強会をもつことを今後の課題としている。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員のストレスや悩みを把握するよう努めると共に、グループ内施設との交流・親睦の場をつくり気分転換を図っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けた支援してくれ、取得後は職場内で活かせる労働環境をみいだせるため、向上心をもって働ける。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談で状況を把握すると共に、本人・家族に施設を見ていただき納得し入所生活を始めてもらう。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所を考えるまでの経緯をゆっくり聴くことにより（家族の想い・本人の要望や求めているものの違いも含め）状況把握し、受けとめる努力をしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状態を把握し、担当介護支援専門員の方も交え、何が必要かを見極めサービスを検討している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 声掛け・見守りをしながら、どのようにすればスムーズに生活に馴染め安心して暮らせるか家族の協力を得、相談しながら工夫している。 (外部評価) 入所希望者にはホームを訪問してもらい、生活の様子を自分の目でみてもらっている。入所後は家族の協力を得て、徐々に生活に慣れ親しんでもらえるよう、細心の注意を払いながらケアに当たっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 「お年よりは人生の先輩である」という考えで、いろいろなことを教えてもらったり、支援する側・される側という意識を持たず、お互い助け合いながら、和やかな生活ができるよう心がけている。 (外部評価) 利用者は支援されている立場であるという一方的な意識は持たず、ホームでは各人が自分に合った役割を持ち、職員、利用者が協働して楽しく生活できるよう努めている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来訪時は、相互の情報を交換し、安心して生活できるように本人を支えていく、協力関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 来訪時は、互いに自由な時間を過ごしていただき、これまでの関係を継続できるよう配慮している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 電話や便りを利用し情報交換を行い、今までの関係が途切れないよう支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど利用者同士の関係がうまくいくように声掛け・見守りしている。		
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約終了後も現状を把握するため訪問・電話するなどし、必要時には 互いに連絡を取り合い相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々声掛け・見守りする中で また ご家族のとの話し合いの中で 思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 (外部評価) 毎日の生活の中で利用者の思いや意向が十分把握できるまで一人ひとりに話しかけ、会話が不十分な利用者とは表情や動作によるコミュニケーションに努めている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式等を活用。日常生活でも本人・家族・友人から情報を収集し、職員みんなで把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の記録の活用や、職員間で意見交流を図り、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の方には、介護保険更新時の訪問調査に可能な限り同席していただき、状態を把握していただくと共に 本人・家族の意向を聴き介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者の生活の様子を職員同士で話し合い、また家族とも相談しながら、地域でその人らしく暮らして行けるよう、利用者本人の立場から介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的な計画の見直し時・急変時にはモニタリング・カンファレンスを行い、現状に即した新たな計画を作成している。 (外部評価) 利用者の状況変化がみられない場合も定期的な介護計画見直しを行い、利用者一人ひとりの状態変化に応じて、利用者、家族と相談しながら臨機応変に見直しを行っている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の生活で気づいたこと、うまくいったこと等は記録し、計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人・家族の状況に応じ 通院や買い物など必要な支援は柔軟に対応し 個々の満足を高めるよう努力している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの状況に合わせて、病院と連携してリハビリの治療を受けられるよう支援し、またホーム内での運動や個人の希望に沿った外出や散歩が行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議に合わせ 民生委員や区長・警察・消防等と協力しながら支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 在宅生活へのワンステップとして、ケアハウスや居宅支援サービス事業所等と連携をとっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、いろいろな情報交換・協力関係ができるようになった。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携を取り、定期健診や必要に応じ 相談・受診等を行っている。希望のかかりつけ医がいる場合は、受診できるよう支援している。 (外部評価) 2つの協力医療機関の協力を受け、必要に応じて治療を受けることができる。またかかりつけの主治医から受診できるよう支援を行っている。	※	緊急の場合に備えて、近くの内科医との協力体制を確立しておくことを期待する。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携を取り、みつに連絡を取り合い、必要時には 専門医を紹介していただいている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師が健康管理を行い、必要があれば協力医療機関と連携し、訪問看護・訪問リハなど医療活用の支援をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 協力医療機関と連携を取り合っているので、早期診療・専門医への紹介が可能である。入院時は医療機関と協同し、早期退院できるよう協力医療機関にも相談・援助を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 協力医療機関と連携を取り、本人・家族を交え今後の状況について相談している。看取りに関する指針を作成し、新しく入所する人には入所時に説明する。施設での最期を希望する場合には医師のターミナル指示により看取り開始となる。 (外部評価) 看取りに関する介護は利用者と家族を交えて話し合い、その意向を十分尊重して、医師の指示により介護を行っている。職員は協力医療機関の指導により、看取り支援の具体的対応に関して話し合いを持っている。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 協力医療機関の強力なサポートで、看取りに関する職員教育に取り組む。医師をはじめとするそのケアに携わる職員がチームケアとして支援に取り組みつつある。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む場合、生活環境・支援内容など情報提供し、きめ細かな連携を心がけている。		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ミーティングの時、利用者一人ひとりの状況把握を職員間で共有し、誇りやプライドを損ねない対応の徹底を図っている。また職員一人ひとりが言葉づかいには十分気をつけている。 (外部評価) 利用者の誇りを傷つけないよう、またプライバシーを損ねないよう、日常的に職員同士で確認をとりながら支援に取り組んでいる。また記録を行う場合も個人情報の漏洩防止には十分注意している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 例えば 着る服・おやつの種類など複数の選択肢を提案し、自分で選べる場面をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの体調や気分によっては食事を遅らせたり・入浴を翌日にするなど配慮している。 (外部評価) 一人ひとりの希望と体調に配慮しながら、その人の生活リズムに合わせて食事・入浴・散歩などの支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容・美容においては本人の意見を聴き、訪問美容ではあるが、毛染めやパーマなど、好みにしてもらっている。また 必要に応じ、家族の協力を得、行きつけの店へ行くこともある。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好むメニューを考えたり、どうしても苦手な食べ物がある人に対しては別のものを用意するなど考慮している。出来る方には食事の準備、片付け等声掛けをし、自主的に手伝っていただいている。 (外部評価) 生活の中で食事が楽しいものになるよう、食事の準備や後片付けもできる限り利用者に手伝ってもらっている。嚥下機能の低下した利用者には刻み料理を準備するなど工夫して、全員が楽しく食事できるよう努めている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 健康に気を付けコーヒーの量・タバコの数など考慮しながら、可能な限り希望に副えるよう対応している。タバコについては喫煙場所・火の取り扱いに注意している。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握する。声掛け・トイレ誘導など本人の生活リズムに沿った支援を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴拒否等が見られる場合には、声掛け・対応の工夫・チームケアなど考慮し、利用者一人ひとりに合わせた入浴支援を心がけている。 (外部評価) 基本的には週3回の入浴支援を行っている。入浴を嫌がる利用者には無理強いするのではなく、声かけし、くつろいで入浴をしよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないよう、なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えている。また ゆっくり出来る空間づくりを考慮し、就寝時は本人の希望に合わせて声掛け、誘導を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの得意分野を把握し、できそうな仕事をお願いし、職員と一緒にいき感謝の気持ちを伝え、経験や知恵を発揮できる機会をつくっている。 <hr/> (外部評価) 一人ひとりの好みに合わせて、食事の手伝い、後片付け、畑作業、洗濯物たたみなどの出番を用意し、生活の中で楽しんでもらうよう支援している。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望があれば 家族の協力を得、少額のお金を所持し 外出時買い物の機会を持っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 中庭を散歩したり、職員と共に花壇や畑の手入れをしたり、気の合う仲間と喫茶店へ出かけお茶を楽しんだり戸外に出かけられるよう支援している。 <hr/> (外部評価) バラ園、菜の花園、すいか狩りなど月に1度はバスで外出をしている。希望する利用者とはホームの周辺を散歩するなどして、自然の中で心身をリラックスしてもらっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 他の施設へ入所している兄弟に会いに行くこともある。また マイクロバス等を使用して、家族の方にも参加を呼びかけ、外出する機会もついている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の声が聞きたくなれば、電話をかけたたり、小包を届けてくれれば、お礼の手紙と一緒に書いたりしている。家族の希望があり、自分で対応可能であれば携帯電話を使用している方もいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間の制限はなく、いつでも自由に訪ねていただけるよう配慮している。各居室で気兼ねなく過ごしていただいたり、お茶を出すなど居心地のよい空間づくりを心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ一人ひとりが十分理解し介護を行っている。ただし、利用者の生命・身体を保護するため、家族に説明し「身体抑制の同意書」をいただき、拘束を行うこともある。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 声かけ・見守りを重視し、一人ひとりのその日の気分や状態の把握を行い、玄関・窓等鍵をすることなく自由な暮らしを支援している。 (外部評価) 利用者に心理的な圧迫感を与えないよう、日中は施錠していない。一人ひとりの外出傾向を把握しており、利用者に目を配りながら、安全な生活ができるよう努めている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 声かけ・見守りを重視し、さりげなく利用者全員の状態を把握するなど 24時間 利用者の安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に合わせ、職員が注意の必要な物品は何かを把握し、管理の方法を取り決め対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 勉強会などで基礎知識や救急処置方法を学ぶと共に、対応は施設マニュアルを整備している。職員は、利用者一人ひとりの状態を把握し、事故防止に取り組んでいる。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時、事故発生時に備え、勉強会を行うと共に対応は施設のマニュアルを整備し、スタッフ全員が心得ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、災害時への対応は日々、訓練している。運営推進会議で地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 (外部評価) 防災マニュアルを作成し、定期的に避難訓練を実施している。しかし、地域の人々の協力を得た訓練はまだ実施したことがない。	※	夜間時の避難訓練を行いたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族に説明し、家族や本人の意向も聴き、抑圧感なく暮らせる方法を一緒に考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 朝のバイタルチェックや入浴時には、体調や皮膚疾患の早期発見に努めている。また、普段の状態を職員全員が把握することで状態の変化を早期に発見できるよう対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、飲み忘れ・誤薬を防ぐよう心がけている。スタッフ一人ひとりが、処方薬の目的、副作用を理解し、自分で服薬管理できない方については介助している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘が及ぼす影響は、勉強会などで理解している。食事については、栄養士と相談し工夫したメニュー作りを心がけている。運動量や水分摂取にも気を配っている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアの重要性を職員に理解してもらい、一人ひとりの能力に応じ声かけ・見守り・介助している。就寝前には義歯の洗浄を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の食事量は記録として残している。栄養士と相談し工夫したメニュー作りを心がけている。必要に応じ 刻む、とろみをつける等配慮している。 (外部評価) 栄養士から助言を貰いながら、カロリーと水分摂取に十分配慮した食事を摂っている。嚥下機能の低下した利用者には刻み料理を準備している。毎朝食の献立はパン食となっている。	※	全利用者が毎回の朝食にパン食を好んでいるのかどうか聞き取ってみることが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症についての勉強会をし、予防・対策に努めている。利用者及び家族に同意をいただき職員と一緒にインフルエンザの予防接種を受けたり、ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用するなど予防にも努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 台所、排水口、まな板、布巾類は毎日漂白し清潔に心がけている。冷蔵庫の点検・掃除をまめに行い衛生面に気を付けている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 明るい雰囲気のある玄関になるよう花をいけたり季節感に配慮している。庭先にはテーブル・椅子を置きお茶を飲んだり話ができるスペースも設けている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレの汚染時は速やかに掃除・消毒を行っている。温度、湿度、明るさにも気を使っている。 (外部評価) 広い共用空間で、ゆったりとソファークつろげる。周囲の緑の自然が心を癒してくれる。空調や光、音にも配慮した居心地のよい共用空間である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 庭先の椅子に座り犬と戯れたり、中庭で日向ぼっこをしたりする光景も見受けられる。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室へ使い慣れた道具の持ち込みを自由にしていただき、過ごしやすい空間づくりに努めている。 (外部評価) 各居室にはテレビや馴染みの物品を持ち込み、その人らしく安心して生活が送れるよう工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 温度、湿度はこまめにチェックし、換気、調整に十分配慮している。必要時には、加湿器、空気清浄機等の使用も行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの設置、段差の解消、身障者用のトイレの設備等により自立に向けた生活が送れるよう支援している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 認識間違いや理解力低下により不安や混乱・失敗が生じた場合は その都度 職員間で話し合い、不安材料を取り除き安心して生活できるよう配慮する。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 畑や庭に四季折々の花や野菜の栽培をし、利用者・職員が一緒になり、楽しく活動できる環境をつくっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない (自己評価)	日常生活の中で、声掛け・見守りをするにより日々利用者の思いを汲み取りその情報を各職員が共有している、また家族と話す機会を持つことにより情報を得る。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない (自己評価)	食事やお茶を共にし、会話する時間を大切にしている。一人ひとり入浴介助をする中でいろいろな会話ができる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	声掛けはするが、強制することなく、一人ひとりのペースで暮らせるよう心がけている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	食事の準備・花壇の手入れ・犬とのふれあいなどできることを一緒にすることで、笑顔や生き生きした表情がみられる。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	個々には、買い物・通院介助や介護保険の更新手続きなど、また 月2回程度はマイクロバス等を利用してみんなで外出できるよう支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	協力医療機関があり、医師や看護師・作業療法士の定期的訪問も行われ、不安を専門家に相談することができている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない (自己評価)	その時々状況や要望に応じ、食事・入浴・レクリエーションなど日常生活について柔軟な支援に心がけている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない (自己評価)	本人及び家族と話す機会を持ち、困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴き、可能な限り応えられるよう配慮している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない (自己評価)	近隣のデイサービス利用者との交流や運営推進会議のメンバーの方が来てくれる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議の回数を重ねるごとに地域住民や地元の関係者との輪が広がっている。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ①ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	悩みや相談があれば聴き入れている。また、各役割担当にすることにより意識を高め、向上心をもっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常生活の支援・相談・健康面・リハビリなどに気を配り、外出・外食・四季折々の行事を行っている。利用者の反応・表情などから満足していただけていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての家族等が 評価) ②家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	利用者に対しては、各種様々な方面からのサービスを行い、家族に対しては、話す機会を持つように心がけている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)
特徴として、
協力医療機関の支援、指導により日々の生活の中にリハビリを取り入れておりQOLの維持、向上に努めている。

庭や畑を利用し入居者、スタッフが協力し 四季に応じて種まき、収穫を行い野菜作りの楽しさを味わったり、マイクロバスを利用し皆で外出の機会を持ち、生活に張りがあるよう支援している。

運営推進会議も定着し、地域住民や地元の関係者との輪も広がっている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- ※用語について
- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
 - 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
 - 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
 - チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 アトラス奥道後

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)
氏名 二宮 弓枝

評価完了日 平成19年 6月 22日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 開設時に作成したものであり、「家庭的な環境の下で」という基本方針で作られたものである。	※	「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」を考慮した新しい理念を考える時期にきている。
			(外部評価) 家族的な雰囲気の中でゆったりとした生活が送れるよう、職員が話し合っで理念を作成し、共有しているが、地域密着型サービスの役割を考えた理念の作成までには至っていない。	※	利用者一人ひとりが地域の中で安心した生活ができるよう、地域との関わりをさらに大切にしたい理念を職員全員が作り上げていくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 頭ではわかっているが中々文章に表現できず困っている。	※	職員間で意見交流を図り、事業所独自の理念をつくりあげ、理念の実践に向けて日々取り組みたい。
			(外部評価) 開設時に作成した理念をホーム内に掲示し、機会を捉えて職員が話し合いを持って理念の共有に努め、ケアに具体的に活かすよう努めている。	※	地域密着型サービスとしての新しい理念を文章化し、ホームの目に付きやすい場所に掲示し、その共有に役立てることを期待する。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念を、見やすいところに明示しているが、すべての家族が知っているかどうか疑問である。	※	まず 事業所独自の理念をつくりあげ、職員間に浸透させ、家族や地域の人々に理解してもらえるよう明示していきたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所の子供が犬を見に来たり、近隣のデイサービス利用者との交流や運営推進会議のメンバーの方を通し輪が広がっている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 盆踊り、夏・秋祭り等に参加させてもらったり、地元の中学生の職場体験場所にしていただくよう交渉中など地域との交流を大切にしている。		
			(外部評価) 町内会に所属して地域の行事には極力参加し、また地方祭には獅子舞がホームに立ち寄ってくれる。また近くの奥道後にはしばしば出かけ、交流を図っている。しかし近くの中学校との交流は実現していない。	※	中学校と職場体験や運動会参加などを通して交流を深め、地元の人たちとの交流を一層深めていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 包括支援センターと協力し介護予防教室開催等、地域住民を対象に認知症の理解や接し方の勉強会を検討中である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) ミーティングで サービス評価の意義や目的を全職員に伝え協力を得ると共に、外部評価の結果を報告し改善に向けて努力している。 (外部評価) 自己評価は職員が話し合っており、職員全員が会議で自己評価、外部評価共に検討し合い、ケアの質の向上につなげていくよう努めている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 前回の運営推進会議で出された提案については、その経過を報告し一つ一つ積み上げている。外部評価についても一緒に考えていただくよう提案している。 (外部評価) 会議には公的機関の担当者、民生委員、地域の区長、利用者代表などが参加し、具体的な提案事項や要望事項を述べ合い、話し合いの内容は報告書に詳細に記載し、ケアの改善に繋げている。しかし家族代表者の参加がない。	※	会議には家族代表者に参加してもらい、忌憚のない意見や要望を聞き取ることを望む。また、参加者を固定するのではなく、交代して参加してもらい、さまざまな新しい意見を聴取することを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 介護保険更新時など利用者の方と一緒に行き状況を見ていただいたり、新しい情報を提供していただく。 (外部評価) 市の担当者に運営推進会議への出席を依頼するほか、ホーム側から市に出向いて担当者から介護に関する指導を受けたり、情報交換を行っている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護・成年後見制度について研修に参加し、その資料を基に伝達講習を行い職員の理解を深めるよう努力している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング等で体験談を話したり意見交流を行い みんなで対応を検討する。一人で抱え込まない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明を行ない、理解、納得を得ると共に、何かあればいつでも相談対応ができるよう心がけている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 常に利用者の声を聞き、問題への解決に努めている。また、重要事項説明書等には外部者への連絡先等も示している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態については、毎月写真入の便りを送ったり、面会時状況報告をしたり、金銭管理については、小遣い帳にサインや確認印をいただく。 <hr/> (外部評価) ホーム全体の暮らしぶりや生活状況は、毎月ホーム便りを届けて報告している。また個人の情報に関しては電話などで具体的に伝えている。金銭管理に関しては出納帳に確認の印をもらっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付窓口・意見箱の設置により、意見、苦情の声を聴き改善していけるよう努めている。 <hr/> (外部評価) 利用者や家族から不満や要望を気安く伝えてもらえるよう、玄関に相談箱を設置し、運営推進会議でも利用者代表から忌憚のない声を伝えてもらっている。また重要事項説明書にはホーム内と第三者機関の相談窓口を明示している。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にミーティングを行い職員の声を聴き入れている。また、改善提案書を一人ひとりに書いてもらい、より良い施設を目指し努めている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 常勤、パートの人材確保により勤務状態は確保されている。勤務表もそれぞれ無理なく仕事できるよう1週間ごとに希望を聴き入れ作成している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 定期的に悩みを聴き入れ異動や離職を必要最小限に抑える努力をしているが、やむを得ない場合は利用者への負担を最小限に抑えられるよう配慮している。 (外部評価) 利用者や職員の馴染みの関係の重要性を十分理解しており、異動や離職を極力避けるよう努めているが、やむをえずある場合は利用者と家族に説明をして理解を得、職員全員でカバーし合ってケアに支障のないよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個々に適した勉強会への参加や講習会への呼びかけを行っている。研修報告書・資料については全職員が閲覧できるようにしている。 (外部評価) 職員が希望する研修会や講習会には参加を促し、ケアの質の向上に繋げている。参加者は報告書をまとめ、職員全員に閲覧し、全職員の資質向上に努めている。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域の同業者と互いに施設見学を行いネットワークを持ち、お互いの事業と協力し合えるよう検討している。 (外部評価) 近くのホームとは交流を持ち、お互いの質の向上に努めているが、交流の機会が十分ではないので、今後さらに多くのホームと交流を深め、お互いに研鑽し合えるよう検討している。	※	地域の同業者との交流や勉強会をもつことを今後の課題としている。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員のストレスや悩みを把握するよう努めると共に、グループ内施設との交流・親睦の場をつくり気分転換を図っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けた支援してくれ、取得後は職場内で活かせる労働環境をみいだせるため、向上心をもって働ける。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面談で状況を把握すると共に、本人・家族に施設を見ていただき納得し入所生活を始めてもらう。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入所を考えるまでの経緯をゆっくり聴くことにより(家族の想い・本人の要望や求めているものの違いも含め)状況把握し、受けとめる努力をしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状態を把握し、担当介護支援専門員の方も交え、何が必要かを見極めサービスを検討している。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 声掛け・見守りをしながら、どのようにすればスムーズに生活に馴染め安心して暮らせるか家族の協力を得、相談しながら工夫している。 (外部評価) 入所希望者にはホームを訪問してもらい、生活の様子を自分の目で見てもらっている。入所後は家族の協力を得て、徐々に生活に慣れ親しんでもらえるよう、細心の注意を払いながらケアに当たっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 「お年よりは人生の先輩である」という考えで、いろいろなことを教えてもらったり、支援する側・される側という意識を持たず、お互い助け合いながら、和やかな生活ができるよう心がけている。 (外部評価) 利用者は支援されている立場であるという一方的な意識は持たず、ホームでは各人が自分に合った役割を持ち、職員、利用者が協働して楽しく生活できるよう努めている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来訪時は、相互の情報を交換し、安心して生活できるように本人を支えていく、協力関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 来訪時は、互いに自由な時間を過ごしていただき、これまでの関係を継続できるよう配慮している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 電話や便りを利用し情報交換を行い、今までの関係が途切れないよう支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど利用者同士の関係がうまくいくように声掛け・見守りしている。		
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約終了後も現状を把握するため訪問・電話するなどし、必要時には 互いに連絡を取り合い相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々声掛け・見守りする中で また ご家族との話し合いの中で 思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。 (外部評価) 毎日の生活の中で利用者の思いや意向が十分把握できるまで一人ひとりに話しかけ、会話が不十分な利用者とは表情や動作によるコミュニケーションに努めている。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式等を活用。日常生活でも本人・家族・友人から情報を収集し、職員みんなで把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々の記録の活用や、職員間で意見交流を図り、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の方には、介護保険更新時の訪問調査に可能な限り同席していただき、状態を把握していただくと共に 本人・家族の意向を聴き介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者の生活の様子を職員同士で話し合い、また家族とも相談しながら、地域でその人らしく暮らして行けるよう、利用者本人の立場から介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 定期的な計画の見直し時・急変時にはモニタリング・カンファレンスを行い、現状に即した新たな計画を作成している。 (外部評価) 利用者の状況変化がみられない場合も定期的な介護計画見直しを行い、利用者一人ひとりの状態変化に応じて、利用者、家族と相談しながら臨機応変に見直しを行っている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の生活で気づいたこと、うまくいったこと等は記録し、計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人・家族の状況に応じ 通院や買い物など必要な支援は柔軟に対応し 個々の満足度を高めるよう努力している。 (外部評価) 利用者一人ひとりの状況に合わせて、病院と連携してリハビリの治療を受けられるよう支援し、またホーム内での運動や個人の希望に沿った外出や散歩が行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議に合わせ 民生委員や区長・警察・消防等と協力しながら支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 在宅生活へのワンステップとして、ケアハウスや居宅支援サービス事業所等と連携をとっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、いろいろな情報交換・協力関係ができるようになった。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携を取り、定期健診や必要に応じ 相談・受診等を行っている。希望のかかりつけ医がいる場合は、受診できるよう支援している。 (外部評価) 2つの協力医療機関の協力を受け、必要に応じて治療を受けることができる。またかかりつけの主治医から受診できるよう支援を行っている。	※	緊急の場合に備えて、近くの内科医との協力体制を確立しておくことを期待する。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携を取り、みつに連絡を取り合い、必要時には 専門医を紹介していただいている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師が健康管理を行い、必要があれば協力医療機関と連携し、訪問看護・訪問リハなど医療活用の支援をしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 協力医療機関と連携を取り合っているため、早期診療・専門医への紹介が可能である。入院時は医療機関と協同し、早期退院できるよう協力医療機関にも相談・援助を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 協力医療機関と連携を取り、本人・家族を交え今後の状況について相談している。看取りに関する指針を作成し、新しく入所する人には入所時に説明する。施設での最期を希望する場合には医師のターミナル指示により看取り開始となる。 (外部評価) 看取りに関する介護は利用者と家族を交えて話し合い、その意向を十分尊重して、医師の指示により介護を行っている。職員は協力医療機関の指導により、看取り支援の具体的対応に関して話し合いを持っている。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 協力医療機関の強力なサポートで、看取りに関する職員教育に取り組む。医師をはじめとするそのケアに携わる職員がチームケアとして支援に取り組みつつある。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む場合、生活環境・支援内容など情報提供し、きめ細かな連携を心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ミーティングの時、利用者一人ひとりの状況把握を職員間で共有し、誇りやプライドを損ねない対応の徹底を図っている。また、職員一人ひとりが言葉づかいには十分気をつけている。 (外部評価) 利用者の誇りを傷つけないよう、またプライバシーを損ねないように、日常的に職員同士で確認をとりながら支援に取り組んでいる。また記録を行う場合も個人情報の漏洩防止には十分注意している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 例えば、着る服・おやつの種類など複数の選択肢を提案し、自分で選べる場面をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの体調や気分によっては食事を遅らせたり・入浴を翌日にするなど配慮している。 (外部評価) 一人ひとりの希望と体調に配慮しながら、その人の生活リズムに合わせて食事・入浴・散歩などの支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容・美容においては本人の意見を聴き、訪問美容ではあるが、毛染めやパーマなど、好みにしてもらっている。また 必要に応じ、家族の協力を得、行きつけの店へ行くこともある。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好むメニューを考えたり、どうしても苦手な食べ物がある人に対しては別のものを用意するなど考慮している。出来る方には食事の準備、片付け等声掛けをし、自主的に手伝っていただいている。 (外部評価) 生活の中で食事が楽しいものになるよう、食事の準備や後片付けもできる限り利用者には手伝ってもらっている。嚥下機能の低下した利用者には刻み料理を準備するなど工夫して、全員が楽しく食事できるよう努めている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 健康に気を付けコーヒーの量・タバコの数など考慮しながら、可能な限り希望に副えるよう対応している。タバコについては喫煙場所・火の取り扱いに注意している。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンを把握する。声掛け・トイレ誘導など本人の生活リズムに沿った支援を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴拒否等が見られる場合には、声掛け・対応の工夫・チームケアなど考慮し、利用者一人ひとりに合わせた入浴支援を心がけている。 (外部評価) 基本的には週3回の入浴支援を行っている。入浴を嫌がる利用者には無理強いするのではなく、声かけし、くつろいで入浴をしてもらうよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないよう、なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えている。また ゆっくり出来る空間づくりを考慮し、就寝時は本人の希望に合わせて声掛け、誘導を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの得意分野を把握し、できそうな仕事をお願いし 職員と一緒に感謝の気持ちを伝え、経験や知恵を発揮できる機会をつくっている。 <hr/> (外部評価) 一人ひとりの好みに合わせて、食事の手伝い、後片付け、畑作業、洗濯物たたみなどの出番を用意し、生活の中で楽しんでもらうよう支援している。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望があれば 家族の協力を得、少額のお金を所持し 外出時買い物の機会を持っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 中庭を散歩したり、職員と共に花壇や畑の手入れをしたり、気の合う仲間と喫茶店へ出かけお茶を楽しんだり戸外に出かけられるよう支援している。 <hr/> (外部評価) バラ園、菜の花園、すいか狩りなど月に1度はバスで外出をしている。希望する利用者とはホームの周辺を散歩するなどして、自然の中で心身をリラックスしてもらっている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 他の施設へ入所している兄弟に会いに行くこともある。また マイクロバス等を使用して、家族の方にも参加を呼びかけ、外出する機会もついている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の声が聞きたくなれば、電話をかけたり、小包を届けてくれれば、お礼の手紙と一緒に書いたりしている。家族の希望があり、自分で対応可能であれば携帯電話を使用している方もいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間の制限はなく、いつでも自由に訪ねていただけるよう配慮している。各居室で気兼ねなく過ごしていただいたり、お茶を出すなど居心地のよい空間づくりを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ一人ひとりが十分理解し介護を行っている。ただし、利用者の生命・身体を保護するため、家族に説明し「身体抑制の同意書」をいただき、拘束を行うこともある。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 声かけ・見守りを重視し、一人ひとりのその日の気分や状態の把握を行い、玄関・窓等鍵をすることなく自由な暮らしを支援している。 <hr/> (外部評価) 利用者に心理的な圧迫感を与えないよう、日中は施錠していない。一人ひとりの外出傾向を把握しており、利用者に目を配りながら、安全な生活ができるよう努めている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 声かけ・見守りを重視し、さりげなく利用者全員の状態を把握するなど 24時間 利用者の安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況に合わせ、職員が注意の必要な物品は何かを把握し、管理の方法を取り決め対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 勉強会などで基礎知識や救急処置方法を学ぶと共に、対応は施設マニュアルを整備している。職員は、利用者一人ひとりの状態を把握し、事故防止に取り組んでいる。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 急変時、事故発生時に備え、勉強会を行うと共に対応は施設のマニュアルを整備し、スタッフ全員が心得ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、災害時への対応は日々、訓練している。運営推進会議で地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。 (外部評価) 防災マニュアルを作成し、定期的に避難訓練を実施している。しかし、地域の人々の協力を得た訓練はまだ実施したことがない。	※	夜間時の避難訓練を行いたい。 運営推進会議などを通して地域の人々の理解と協力を得て、地域ぐるみの防災訓練を実施することを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族に説明し、家族や本人の意向も聴き、抑圧感なく暮らせる方法を一緒に考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 朝のバイタルチェックや入浴時には、体調や皮膚疾患の早期発見に努めている。また、普段の状態を職員全員が把握することで状態の変化を早期に発見できるよう対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、飲み忘れ・誤薬を防ぐよう心がけている。スタッフ一人ひとりが、処方薬の目的、副作用を理解し、自分で服薬管理できない方については介助している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘が及ぼす影響は、勉強会などで理解している。食事については、栄養士と相談し工夫したメニュー作りを心がけている。運動量や水分摂取にも気を配っている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアの重要性を職員に理解してもらい、一人ひとりの能力に応じ声かけ・見守り・介助している。就寝前には義歯の洗浄を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の食事は記録として残している。栄養士と相談し工夫したメニュー作りを心がけている。必要に応じ 刻む、とろみをつける等配慮している。 (外部評価) 栄養士から助言を貰いながら、カロリーと水分摂取に十分配慮した食事を摂っている。嚥下機能の低下した利用者には刻み料理を準備している。毎朝食の献立はパン食となっている。	※	全利用者が毎回の朝食にパン食を好んでいるのかどうか聞き取ってみることが求められる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症についての勉強会をし、予防・対策に努めている。利用者及び家族に同意をいただき職員と一緒にインフルエンザの予防接種を受けたり、ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用するなど予防にも努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 台所、排水口、まな板、布巾類は毎日漂白し清潔に心がけている。冷蔵庫の点検・掃除をまめに行い衛生面に気を付けている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 明るい雰囲気のある玄関になるよう花をいけたり季節感に配慮している。庭先にはテーブル・椅子を置きお茶を飲んだり話ができるスペースも設けている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレの汚染時は速やかに掃除・消毒を行っている。温度、湿度、明るさにも気を使っている。 (外部評価) 広い共用空間で、ゆったりとソファークつろげる。周囲の緑の自然が心を癒してくれる。空調や光、音にも配慮した居心地のよい共用空間である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 庭先の椅子に座り犬と戯れたり、廊下の椅子に座り気の合う仲間と話に花を咲かせている光景も見受けられる。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室へ使い慣れた道具の持ち込みを自由にしていただき、過ごしやすい空間づくりに努めている。 (外部評価) 各居室にはテレビや馴染みの物品を持ち込み、その人らしく安心した生活が送れるよう工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 温度、湿度はこまめにチェックし、換気、調整に十分配慮している。必要時には、加湿器、空気清浄機等の使用も行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりの設置、段差の解消、身障者用のトイレの設備等により自立に向けた生活が送れるよう支援している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 認識間違いや理解力低下により不安や混乱・失敗が生じた場合は その都度 職員間で話し合い、不安材料を取り除き安心して生活できるよう配慮する。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 畑や庭に四季折々の花や野菜の栽培をし、利用者・職員が一緒になり、楽しく活動できる環境をつくっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4ほとんど掴んでいない (自己評価)	日常生活の中で、声掛け・見守りをするにより日々利用者の思いを汲み取りその情報を各職員が共有している、また家族と話す機会を持つことにより情報を得る。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある 2数日に1回程度ある 3たまにある 4ほとんどない (自己評価)	食事やお茶を共にし、会話する時間を大切にしている。一人ひとり入浴介助をする中でいろいろな会話ができる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない (自己評価)	声掛けはするが、強制することなく、一人ひとりのペースで暮らせるよう心がけている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない (自己評価)	食事の準備・花壇の手入れ・犬とのふれあいなどできることを一緒にすることで、笑顔や生き生きした表情がみられる。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない (自己評価)	個々には、買い物・通院介助や介護保険の更新手続きなど、また 月2回程度はマイクロバス等を利用してみんなで外出できるよう支援している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない (自己評価)	協力医療機関があり、医師や看護師・作業療法士の定期的訪問も行われ、不安を専門家に相談することができている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4ほとんどいない (自己評価)	その時々状況や要望に応じ、食事・入浴・レクリエーションなど日常生活について柔軟な支援に心がけている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4ほとんどできていない (自己評価)	本人及び家族と話す機会を持ち、困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴き、可能な限り応えられるよう配慮している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4ほとんどない (自己評価)	近隣のデイサービス利用者との交流や運営推進会議のメンバーの方が来てくれる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議の回数を重ねるごとに地域住民や地元の関係者との輪が広がっている。
98	職員は、活き活きと働いている	(自己 ①ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	悩みや相談があれば聴き入れている。また、各役割担当にすることにより意識を高め、向上心をもっている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常生活の支援・相談・健康面・リハビリなどに気を配り、外出・外食・四季折々の行事を行っている。利用者の反応・表情などから満足していただけていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ①ほぼ全ての家族等が 評価) ②家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	利用者に対しては、各種様々な方面からのサービスを行い、家族に対しては、話す機会を持つように心がけている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)
特徴として、
協力医療機関の支援、指導により日々の生活の中にリハビリを取り入れておりQOLの維持、向上に努めている。

庭や畑を利用し入居者、スタッフが協力し 四季に応じて種まき、収穫を行い野菜作りの楽しさを味わったり、マイクロバスを利用し皆で外出の機会を持ち、生活に張りがあるよう支援している。

運営推進会議も定着し、地域住民や地元の関係者との輪も広がっている。